

原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ
復興対策基礎基盤研究プログラム
事後評価総合所見

評価の概要	
<p>研究課題名：多様なセシウム汚染廃棄物の中間・最終処分安全評価のための機関連携による多角的研究</p> <p>研究代表者（研究機関名）：小崎 完（北海道大学）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：大貫 敏彦（日本原子力研究開発機構）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：宇都宮 聡（九州大学）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：山路 恵子（筑波大学）</p> <p>研究期間及び研究経費：平成24年度～平成26年度（3年計画）97百万円</p>	
項目	要 約
1. 研究の概要	<p>福島第一原子力発電所の事故によって発生したCs汚染廃棄物の安全な処理・処分を実現するため、中間貯蔵あるいは最終処分時のCsの収脱着挙動及び廃棄体の安定性、廃棄体から環境中に再度放出され得るCsの動態、土壌中のCsの移行機構の検討を行い、Cs汚染廃棄物の中間貯蔵および最終処分の現実的な安全評価に不可欠な基礎データならびに知見を提供することを目的として研究を行った。</p>
2. 総合評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>最終的にCs廃棄物の処分安全性を定量的に評価し実用に供するまでの道程は不透明であり、まだ多くの解決すべき課題があるが、Csに対する微生物影響評価の初期研究の成果、放射性廃棄物の捕獲処分という効果が認められる。これからの処分に繋げるものにしてほしい。今後の展開に期待する。</p> <p>S) 極めて優れた成果が挙げられている A) 優れた成果が挙げられている B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんど挙げられていない</p>